

2023年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2023年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、2023年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2023年の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり、前年の8.2に比べ0.1の減少となっている。2021年に結核罹患率は9.2と結核低まん延国の水準である10.0以下に達し、2023年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、大分県、奈良県、兵庫県、京都府の順に高く、岩手県、山梨県、山形県、宮城県、長野県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は13.1であり、最も低い岩手県の結核罹患率3.6の3.6倍となっている。

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2023年の結核による死亡数は1,587人（概数）で、前年の1,664人に比べ77人減少している。死亡率（人口10万対）は1.3で前年から0.1減少している。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

- (1) 2023年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は10,096人で、前年より139人減少している。減少率を見ると、2023年の前年からの減少率は1.4%（10,235人→10,096人）と、2022年の前年からの減少率11.1%（11,519人→10,235人）に比べ、9.7ポイントの大幅な縮小となっている。

（表4-1）

- (2) 2023年の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり、前年の8.2より0.1(1.2%)減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の

状態が継続している。減少率を見ると、2023年の前年からの減少率は1.2%と、2022年の前年からの減少率10.9%に比べ、9.7ポイントの大幅な縮小となっている。(表4-1、図1)

- (3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,524人で、前年より179人(4.8%)減少している。(表4-2)
- (4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は2.8であり、前年の3.0より0.2減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は34.9%で、前年から1.3ポイントの減少となっている。(表4-2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 年齢階級別の新登録結核患者数は、15歳以上から39歳以下までの年齢層で増加がみられ、特に20~29歳では前年より265人(34.1%)の増加となり、これは主に外国出生結核患者の増加によるものである。また、50~59歳で29人(4.0%)の増加となっている。0~14歳の小児結核は37人で前年から2人(5.7%)の増加となっている。60歳以上の年齢層では減少となっており、減少数が最も大きかったのは80~89歳で239人(7.6%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が28.9%と最も大きくなっている。90歳以上の結核患者数は前年から15人の減少であったが、全体に占める割合は14.0%と0.1ポイントの増加となっている。(表5-1)
- (2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、15歳以上から39歳以下までの年齢層で増加がみられ、特に20~29歳では前年より42人(21.2%)の増加となっている。0~14歳の小児喀痰塗抹陽性肺結核発生は1人となっている。減少数が最も大きかった年齢階級は80~89歳で78人(6.3%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が33.0%と最も大きくなっている。(表5-2)
- (3) 小児結核患者(14歳以下)のうち、重症結核例である粟粒結核は2人、結核性髄膜炎は3人の発生となっている。粟粒結核は11歳の2人で、うち1人は外国出生患者となっている。結核性髄膜炎は0歳、1歳、3歳で各1人の発生となっている。(表5-3)
- (4) 2023年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,033

人で、前年より8人(0.2%)の増加となっている。0～4歳は283人で、全体の5.6%となっている。20～29歳では664人と、前年の462人から202人(43.7%)の大幅な増加となっている。最も登録者が多かった年齢階級は70～79歳の982人で全体の19.5%となっており、60歳以上が49.3%と約半数を占めている。(表5-4)

(5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では2.3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は14.2となっている。また、15歳以上の年齢階級は全て1.0未満となっており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。(表5-5)

(6) 2023年の職業別にみた潜在性結核感染症新登録者数では、医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)は844人で、割合は16.8%となっており、前年の17.1%から0.3ポイントの減少となっている。一方、医療職、接客業、教員・保育士以外の常用勤労者では142人(19.3%)の増加となっている。また、高校生以上の生徒学生で98人(42.1%)の増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の登録者数は650人で、割合は12.9%となり、前年の11.2%から1.7ポイントの増加となっている。(表5-6)

(7) 外国生まれ新登録結核患者数は1,619人と、前年の1,214人から405人(33.4%)の大幅な増加となっている。これは、新型コロナウイルス感染症流行以前の2019年の患者数1,541人を超えたものとなっている。また、新登録結核患者における外国生まれの者の割合も16.0%と、前年の11.9%から4.1ポイントの大幅な増加となっている。特に、20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて282人(46.8%)増加して884人となっており、同年齢階級での割合は84.8%と前年から7.3ポイントの増加となっている。30～39歳においても外国生まれ新登録結核患者数は61人(22.3%)増加して334人となり、割合は前年の54.3%から61.6%と7.3ポイント増加している。(表5-7)

(8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の513人から375人(73.1%)増加し888人となっている。外国生まれ新登録結核患者のうちで占める割合も54.8%と半数以上は5年以内の入国の者となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から262人(73.4%)増加して619人となっている。(表5-8)

(9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の8,673人から467人減少して8,206人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が

最も多く2,794人で日本生まれ新登録結核患者の34.0%となっている。15歳以上の年齢階級では、50～59歳で23人(3.6%)の増加となった以外では患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは80～89歳で222人の減少となっている。90歳以上も2020年以降は減少傾向となっているが、2023年は4人の減少にとどまっている。(表5-9)

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は5.8で全年齢の罹患率より低い。70～79歳で11.9、80～89歳で29.6、90歳以上では51.6となっている。全体としては、外国生まれ患者の影響がある若年層を除いて、年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。(表6-1)
- (2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは5未満だが、80～89歳で11.8、90歳以上では21.6となっている。(表6-2)
- (3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.3減少の6.8となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.3、30～39歳で1.6となっており、全体の罹患率からは低くなっている。(表6-3)

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち18の道府県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,190人で、次いで大阪府の1,145人となっている。(表7-1)
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち18の道府県で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県数は、43に達している。最も低い岩手県の罹患率は3.6となっている。罹患率が最も高い大阪府は13.1で岩手県の3.6倍となっている。(表7-2)

【表 8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2023年末現在の結核登録者数は22,426人と、前年の24,555人より2,129人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,794人と、前年より12人増加している。また、2023年末の結核有病率は、前年の5.4から0.1増加し、5.5となっている。(表8)

【表 9～表15 新登録結核患者の疫学的特徴について】

<再治療者>

2023年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の384人から41人増加して425人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は120人、2020年以降の者は145人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち62.4%となっている。(表9)

<発見の遅れ>

(ア) 2023年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた(症状発現から受診までの期間が2か月以上)患者の割合は、前年と同じ19.9%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は40.0%で、前年から7.6ポイントの大幅な増加となっている。(表10-1)

(イ) 診断が遅れた(受診から結核の診断までの期間が1か月以上)患者の割合は、前年から1.0ポイント増加して22.5%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は15.0%で、前年から1.5ポイントの増加となっている。(表10-2)

(ウ) 発見が遅れた(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、0.8ポイント増加して21.3%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は40.4%で、前年から10.9ポイントの大幅な増加となっている。(表10-3)

<薬剤耐性>

2023年の新登録肺結核培養陽性結核患者5,515人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は4,526人で、割合は82.1%となり、前年の78.1%から4.0ポイント増加となってい

る。このうち、多剤耐性肺結核患者数（INH、RFP両剤耐性の者）は35人で、前年より9人の増加となっている。また、多剤耐性肺結核患者35人のうち、19人が外国出生患者となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.6%で前年から0.1ポイント増加となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤（HRSE）全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は87.0%となっている。（表11）

<糖尿病、HIV合併>

2023年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,696人で、新登録結核患者の16.8%となっている。また、HIV検査を実施した患者は650人で、新登録結核患者の6.4%にあたり、このうちHIV陽性は14人で、新登録結核患者の0.1%となっている。（表12）

<医療従事者>

（ア） 2023年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は91人で、前年の113人から22人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は0.9%と前年から0.2ポイントの減少となっている。年齢階級別では、40～49歳が最も多く25人となっており、同年齢階級新登録結核患者の5.1%となっている。（表13-1）

（イ） 2023年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は24人で、前年より4人増加となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。30歳から79歳の各年齢階級別新登録結核患者中割合は0.3～0.4%となっている。（表13-2）

（ウ） 2023年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は204人で昨年の192人から12人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は2.0%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く65人で、同年齢階級新登録結核患者の6.2%となっている。（表13-3）

<無職臨時日雇など>

2023年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は453人で、前年の513人から60人減少している。新登録結核患者のうちの割合は16.0%で前年から4.0ポイントの減少となっている。年齢階級別での患者数は、50～54歳と55～59歳が同数で最も多い93人で、それぞれ同年齢階級の24.1%と24.7とな

っている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合は55～59歳が最も高く23.3%となっているが、前年からは11.9ポイントの減少となっている。（表14-1、14-2）

<治療成績>

2022年の新登録結核患者の2023年末での治療成績は、治療成功が64.9%、死亡27.0%、失敗0.1%、脱落・中断1.9%、転出1.6%、治療中4.3%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で14.3%、70～79歳で22.8%、80～89歳で39.9%、90歳以上で58.4%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は82.1%～89.9%となっている。20歳以上では脱落・中断は60～69歳で最も高く2.6%となっている。（表15-1）

2022年の新登録再治療結核患者の2023年末での治療成績は、治療成功が66.3%、死亡23.4%、失敗0.3%、脱落・中断3.1%、転出1.0%、治療中5.7%、不明0.3%となっている。（表15-2）

2022年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2023年末での治療完了率は85.0%となっている。脱落・中断は7.0%となっているが、高齢になるにつれて脱落・中断は高くなる傾向があり、80～89歳では9.7%、90歳以上では16.0%となっている。（表15-3）

2021年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2023年末での治療成績は、対象50人のうち治療成功62.0%、死亡16.0%、失敗0.0%、脱落・中断4.0%、転出6.0%、治療中12.0%、不明0.0%となっている。（表15-4）

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米国	2.6	2022
スウェーデン	3.9	2022
デンマーク	4.0	2022
オランダ	4.1	2022
イタリア	4.6	2022
ドイツ	5.1	2022
オーストラリア	5.6	2022
カナダ	5.7	2022
フランス	7.2	2022
英国	7.6	2022
日本	8.1	2023
韓国	39	2022
シンガポール	51	2022
中国	52	2022
タイ	155	2022
ベトナム	176	2022
ネパール	229	2022
インドネシア	385	2022
ミャンマー	475	2022
フィリピン	638	2022

諸外国のデータは、下記より引用

World Health Organization “TB country, regional and global profiles”

https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb_profiles

2024年7月3日アクセス

日本以外はWHOによる推定罹患率

2023年の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり、前年の8.2に比べ0.1の減少となっている。2021年に結核罹患率は9.2と結核低まん延国の水準である10.0以下に達し、2023年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	岩手	3.6
	山梨	4.0
	山形	4.4
	宮城	5.2
	長野	5.2
罹患率の高い5都道府県	大阪	13.1
	大分	12.2
	奈良	10.8
	兵庫	10.2
	京都	9.9

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、大分県、奈良県、兵庫県、京都府の順に高く、岩手県、山梨県、山形県、宮城県、長野県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は13.1であり、最も低い岩手県の結核罹患率3.6の3.6倍となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,893	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,087	1.7
2020年	-	1,909	1.5
2021年	-	1,845	1.5
2022年	-	1,664	1.4
2023年	-	1,587	1.3

(注) 死亡率は人口10万対
 人口動態統計より。2023年は概数。
 2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。
 2020年以降は結核の死因の順位の公表はなかった。

2023年の結核による死亡数は1,587人(概数)で、前年の1,664人に比べ77人減少している。死亡率(人口10万対)は1.3で前年から0.1減少している。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比		実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比	
1992年					48,956		39.3	
1993年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
1994年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
1995年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
1996年					42,472	△ 606	33.7	△0.6
1997年					42,715	243	33.9	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2				
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4				
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4				
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8				
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5				
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6				
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7				
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5				
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6				
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0				
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8				
2020年	12,739	△1,721	10.1	△1.4				
2021年	11,519	△1,220	9.2	△0.9				
2022年	10,235	△1,284	8.2	△1.0				
2023年	10,096	△139	8.1	△0.1				

2023年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は10,096人で、前年より139人減少している。減少率を見ると、2023年の前年からの減少率は1.4%（10,235人→10,096人）と、2022年の前年からの減少率11.1%（11,519人→10,235人）に比べ、9.7ポイントの大幅な縮小となっている。

2023年の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり、前年の8.2より0.1（1.2%）減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態が継続している。減少率を見ると、2023年の前年からの減少率は1.2%と、2022年の前年からの減少率10.9%に比べ、9.7ポイントの大幅な縮小となっている。

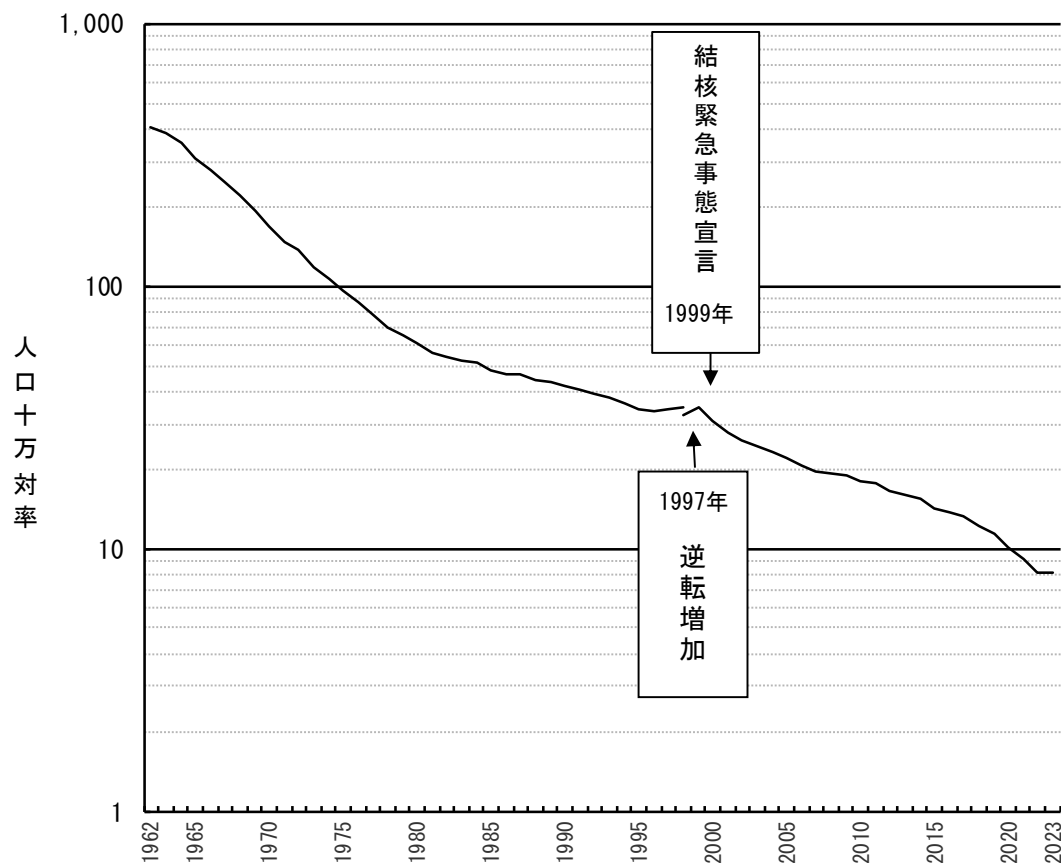
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		喀痰塗抹陽性 患者の割合 (%/全結核)	塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		塗抹陽性患者 の割合 (%/全結核)		
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比			
1992年				15,540	12.5	31.7		
1993年				15,210	△330	12.2	△0.3	32.1
1994年				14,777	△433	11.8	△0.4	33.1
1995年				15,103	326	12.0	0.2	35.1
1996年				15,035	△68	11.9	△0.1	35.4
1997年				15,967	932	12.7	0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294	327	12.9	0.2	37.0
1999年	14,482	1,077	11.4	0.8	33.1			
2000年	13,220	△1,262	10.4	△1.0	33.6			
2001年	12,656	△564	9.9	△0.5	35.7			
2002年	11,933	△723	9.4	△0.5	36.4			
2003年	11,857	△76	9.3	△0.1	37.5			
2004年	11,445	△412	9.0	△0.3	38.5			
2005年	11,318	△127	8.9	△0.1	40.0			
2006年	10,492	△826	8.2	△0.7	39.8			
2007年	10,204	△288	8.0	△0.2	40.3			
2008年	9,809	△395	7.7	△0.3	39.6			
2009年	9,675	△134	7.6	△0.1	40.0			
2010年	9,019	△656	7.0	△0.6	38.8			
2011年	8,654	△365	6.8	△0.2	38.2			
2012年	8,237	△417	6.5	△0.3	38.7			
2013年	8,119	△118	6.4	△0.1	39.6			
2014年	7,651	△468	6.0	△0.4	39.0			
2015年	7,131	△520	5.6	△0.4	39.0			
2016年	6,642	△489	5.2	△0.4	37.7			
2017年	6,359	△283	5.0	△0.2	37.9			
2018年	5,781	△578	4.6	△0.4	37.1			
2019年	5,231	△550	4.1	△0.5	36.2			
2020年	4,615	△616	3.7	△0.4	36.2			
2021年	4,127	△488	3.3	△0.4	35.8			
2022年	3,703	△424	3.0	△0.3	36.2			
2023年	3,524	△179	2.8	△0.2	34.9			

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,524人で、前年より179人（4.8%）減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は2.8であり、前年の3.0より0.2減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は34.9%で、前年から1.3ポイントの減少となっている。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



2023年の結核罹患率（人口10万対）は8.1であり、前年の8.2より0.1(1.2%)減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態が継続している。減少率を見ると、2022年の前年からの減少率は10.9%であることから、減少幅は9.7ポイントの大幅な縮小となっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)	10,096 (100.0)
0～4歳	18 (0.1)	27 (0.2)	14 (0.1)	21 (0.2)	20 (0.2)
5～9歳	9 (0.1)	9 (0.1)	5 (0.0)	8 (0.1)	6 (0.1)
10～14歳	11 (0.1)	16 (0.1)	10 (0.1)	6 (0.1)	11 (0.1)
15～19歳	142 (1.0)	75 (0.6)	98 (0.9)	71 (0.7)	91 (0.9)
20～29歳	1,164 (8.0)	1,027 (8.1)	930 (8.1)	777 (7.6)	1,042 (10.3)
30～39歳	767 (5.3)	686 (5.4)	597 (5.2)	503 (4.9)	542 (5.4)
40～49歳	985 (6.8)	741 (5.8)	640 (5.6)	546 (5.3)	487 (4.8)
50～59歳	1,054 (7.3)	924 (7.3)	841 (7.3)	733 (7.2)	762 (7.5)
60～69歳	1,472 (10.2)	1,262 (9.9)	1,070 (9.3)	921 (9.0)	863 (8.5)
70～79歳	2,810 (19.4)	2,547 (20.0)	2,241 (19.5)	2,066 (20.2)	1,943 (19.2)
80～89歳	4,061 (28.1)	3,686 (28.9)	3,440 (29.9)	3,159 (30.9)	2,920 (28.9)
90歳以上	1,967 (13.6)	1,739 (13.7)	1,633 (14.2)	1,424 (13.9)	1,409 (14.0)

年齢階級別の新登録結核患者数は、15歳以上から39歳以下までの年齢層で増加がみられ、特に20～29歳では前年より265人(34.1%)の増加となり、これは主に外国出生結核患者の増加によるものである。また、50～59歳で29人(4.0%)の増加となっている。0～14歳の小児結核は37人で前年から2人(5.7%)の増加となっている。60歳以上の年齢層では減少となっており、減少数が最も大きかったのは80～89歳で239人(7.6%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が28.9%と最も大きくなっている。90歳以上の結核患者数は前年から15人の減少であったが、全体に占める割合は14.0%と0.1ポイントの増加となっている。

表5-2. 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	5,231 (100.0)	4,615 (100.0)	4,127 (100.0)	3,703 (100.0)	3,524 (100.0)
0～4歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	0 (0.0)	3 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)
15～19歳	38 (0.7)	20 (0.4)	35 (0.8)	17 (0.5)	19 (0.5)
20～29歳	296 (5.7)	255 (5.5)	202 (4.9)	198 (5.3)	240 (6.8)
30～39歳	199 (3.8)	194 (4.2)	169 (4.1)	136 (3.7)	139 (3.9)
40～49歳	308 (5.9)	226 (4.9)	182 (4.4)	169 (4.6)	146 (4.1)
50～59歳	364 (7.0)	307 (6.7)	291 (7.1)	264 (7.1)	233 (6.6)
60～69歳	525 (10.0)	489 (10.6)	379 (9.2)	317 (8.6)	296 (8.4)
70～79歳	1,035 (19.8)	925 (20.0)	794 (19.2)	756 (20.4)	696 (19.8)
80～89歳	1,595 (30.5)	1,454 (31.5)	1,374 (33.3)	1,241 (33.5)	1,163 (33.0)
90歳以上	871 (16.7)	742 (16.1)	699 (16.9)	603 (16.3)	591 (16.8)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、15歳以上から39歳以下までの年齢層で増加がみられ、特に20～29歳では前年より42人(21.2%)の増加となっている。0～14歳の小児喀痰塗抹陽性肺結核発生は1人となっている。減少数が最も大きかった年齢階級は80～89歳で78人(6.3%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が33.0%と最も大きくなっている。

表5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	2019年			2020年			2021年			2022年			2023年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲)粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲)粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲)粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲)粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲)粟粒結核、結核性髄膜炎併発
合計	3	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	3	0
0～4歳	2	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

2023年患者の詳細

粟粒結核 11歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
 11歳、外国出生1名、BCG接種歴なし。
 結核性髄膜炎 0歳、出生国不明1名、BCG接種歴不明。
 1歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。
 3歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2021年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2020年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2019年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。
 粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。
 粟粒結核 12歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

小児結核患者（14歳以下）のうち、重症結核例である粟粒結核は2人、結核性髄膜炎は3人の発生となっている。粟粒結核は11歳の2人で、うち1人は外国出生患者となっている。結核性髄膜炎は0歳、1歳、3歳で各1人の発生となっている。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)	5,033 (100.0)
0～4歳	411 (5.3)	365 (6.5)	281 (5.5)	279 (5.6)	283 (5.6)
5～9歳	62 (0.8)	58 (1.0)	35 (0.7)	42 (0.8)	35 (0.7)
10～14歳	53 (0.7)	36 (0.6)	28 (0.5)	33 (0.7)	25 (0.5)
15～19歳	124 (1.6)	73 (1.3)	51 (1.0)	62 (1.2)	79 (1.6)
20～29歳	867 (11.3)	514 (9.2)	431 (8.4)	462 (9.2)	664 (13.2)
30～39歳	750 (9.8)	454 (8.1)	414 (8.1)	350 (7.0)	396 (7.9)
40～49歳	1,025 (13.3)	641 (11.5)	547 (10.6)	520 (10.3)	437 (8.7)
50～59歳	1,145 (14.9)	760 (13.6)	703 (13.7)	668 (13.3)	633 (12.6)
60～69歳	1,147 (14.9)	906 (16.3)	747 (14.5)	666 (13.3)	642 (12.8)
70～79歳	1,293 (16.8)	1,033 (18.5)	1,112 (21.6)	1,093 (21.8)	982 (19.5)
80歳以上	807 (10.5)	735 (13.2)	791 (15.4)	850 (16.9)	857 (17.0)

2023年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,033人で、前年より8人(0.2%)の増加となっている。0～4歳は283人で、全体の5.6%となっている。20～29歳では664人と、前年の462人から202人(43.7%)の大幅な増加となっている。最も登録者が多かった年齢階級は70～79歳の982人で全体の19.5%となっており、60歳以上が49.3%と約半数を占めている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

(比: 潜在性結核感染症新登録者数 / 新登録結核患者数)

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5
0～4歳	22.8	13.5	20.1	13.3	14.2
5～9歳	6.9	6.4	7.0	5.3	5.8
10～14歳	4.8	2.3	2.8	5.5	2.3
15～19歳	0.9	1.0	0.5	0.9	0.9
20～29歳	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6
30～39歳	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7
40～49歳	1.0	0.9	0.9	1.0	0.9
50～59歳	1.1	0.8	0.8	0.9	0.8
60～69歳	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7
70～79歳	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5
80歳以上	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では2.3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は14.2となっている。また、15歳以上の年齢階級は全て1.0未満となっており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2023/2022年
総 数	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)	5,033 (100.0)	1.0
看護師・保健師	749 (9.7)	480 (8.6)	412 (8.0)	343 (6.8)	324 (6.4)	0.9
医師	156 (2.0)	98 (1.8)	73 (1.4)	79 (1.6)	73 (1.5)	0.9
その他医療職・介護職	776 (10.1)	502 (9.0)	522 (10.2)	435 (8.7)	447 (8.9)	1.0
接客業等	180 (2.3)	142 (2.5)	102 (2.0)	111 (2.2)	123 (2.4)	1.1
教員・保育士	79 (1.0)	53 (1.0)	42 (0.8)	41 (0.8)	32 (0.6)	0.8
上記以外の常用勤労者	1,509 (19.6)	944 (16.9)	817 (15.9)	737 (14.7)	879 (17.5)	1.2
上記以外の臨時雇、日雇	255 (3.3)	143 (2.6)	155 (3.0)	173 (3.4)	131 (2.6)	0.8
上記以外の自営業・自由業	244 (3.2)	181 (3.2)	198 (3.9)	159 (3.2)	186 (3.7)	1.2
家事従事者	118 (1.5)	67 (1.2)	48 (0.9)	34 (0.7)	31 (0.6)	0.9
無職・その他	2,551 (33.2)	2,149 (38.5)	2,141 (41.7)	2,185 (43.5)	2,041 (40.6)	0.9
乳幼児	324 (4.2)	299 (5.4)	234 (4.6)	226 (4.5)	226 (4.5)	1.0
保育園・幼稚園児・小中学生	180 (2.3)	136 (2.4)	81 (1.6)	104 (2.1)	93 (1.8)	0.9
高校生以上の生徒学生等	421 (5.5)	246 (4.4)	151 (2.9)	233 (4.6)	331 (6.6)	1.4
不明	142 (1.8)	135 (2.4)	164 (3.2)	165 (3.3)	116 (2.3)	0.7

2023年の職業別にみた潜在性結核感染症新登録者数では、医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）は844人で、割合は16.8%となっており、前年の17.1%から0.3ポイントの減少となっている。一方、医療職、接客業、教員・保育士以外の常用勤労者では142人（19.3%）の増加となっている。また、高校生以上の生徒学生で98人（42.1%）の増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の登録者数は650人で、割合は12.9%となり、前年の11.2%から1.7ポイントの増加となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

()内は新登録に占める割合

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	1,541 (10.7)	1,411 (11.1)	1,313 (11.4)	1,214 (11.9)	1,619 (16.0)
0～4歳	2 (11.1)	2 (7.4)	1 (7.1)	6 (28.6)	3 (15.0)
5～9歳	5 (55.6)	4 (44.4)	2 (40.0)	1 (12.5)	3 (50.0)
10～14歳	3 (27.3)	3 (18.8)	3 (30.0)	1 (16.7)	2 (18.2)
15～19歳	78 (54.9)	40 (53.3)	40 (40.8)	41 (57.7)	69 (75.8)
20～29歳	851 (73.1)	732 (71.3)	675 (72.6)	602 (77.5)	884 (84.8)
30～39歳	283 (36.9)	330 (48.1)	276 (46.2)	273 (54.3)	334 (61.6)
40～49歳	147 (14.9)	141 (19.0)	135 (21.1)	125 (22.9)	112 (23.0)
50～59歳	76 (7.2)	83 (9.0)	94 (11.2)	84 (11.5)	86 (11.3)
60～69歳	41 (2.8)	44 (3.5)	43 (4.0)	33 (3.6)	57 (6.6)
70～79歳	27 (1.0)	19 (0.7)	16 (0.7)	19 (0.9)	30 (1.5)
80歳以上	28 (0.5)	13 (0.0)	28 (0.6)	29 (0.6)	39 (0.9)

外国生まれ新登録結核患者数は1,619人と、前年の1,214人から405人(33.4%)の大幅な増加となっている。これは、新型コロナウイルス感染症流行以前の2019年の患者数1,541人を超えたものとなっている。また、新登録結核患者における外国生まれの者の割合も16.0%と、前年の11.9%から4.1ポイントの大幅な増加となっている。特に、20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて282人(46.8%)増加して884人となっており、同年齢階級での割合は84.8%と前年から7.3ポイントの増加となっている。30～39歳においても外国生まれ新登録結核患者数は61人(22.3%)増加して334人となり、割合は前年の54.3%から61.6%と7.3ポイント増加している。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）

（ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	836 (54.3)	669 (47.4)	568 (43.3)	513 (42.3)	888 (54.8)
0～4歳	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	4 (66.7)	2 (66.7)
5～9歳	5 (100.0)	2 (50.0)	1 (50.0)	1 (100.0)	3 (100.0)
10～14歳	1 (33.3)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	2 (100.0)
15～19歳	62 (79.5)	23 (57.5)	27 (67.5)	29 (70.7)	52 (75.4)
20～29歳	588 (69.1)	458 (62.6)	384 (56.9)	357 (59.3)	619 (70.0)
30～39歳	127 (44.9)	135 (40.9)	117 (42.4)	87 (31.9)	158 (47.3)
40～49歳	32 (21.8)	29 (20.6)	23 (17.0)	23 (18.4)	27 (24.1)
50～59歳	7 (9.2)	10 (12.0)	7 (7.4)	8 (9.5)	7 (8.1)
60～69歳	8 (19.5)	11 (25.0)	5 (11.6)	1 (3.0)	10 (17.5)
70～79歳	5 (18.5)	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.3)	7 (23.3)
80歳以上	1 (3.6)	0 (0.0)	1 (3.6)	2 (6.9)	1 (2.6)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の513人から375人（73.1%）増加し888人となっている。外国生まれ新登録結核患者のうちで占める割合も54.8%と半数以上は5年以内の入国の者となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から262人（73.4%）増加して619人となっている。

表5-9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	12,567 (100.0)	11,080 (100.0)	9,809 (100.0)	8,673 (100.0)	8,206 (100.0)
0～4歳	16 (0.1)	25 (0.2)	13 (0.1)	15 (0.2)	15 (0.2)
5～9歳	4 (0.0)	5 (0.0)	3 (0.0)	7 (0.1)	3 (0.0)
10～14歳	8 (0.1)	13 (0.1)	7 (0.1)	5 (0.1)	9 (0.1)
15～19歳	62 (0.5)	35 (0.3)	57 (0.6)	28 (0.3)	21 (0.3)
20～29歳	307 (2.4)	287 (2.6)	243 (2.5)	161 (1.9)	148 (1.8)
30～39歳	476 (3.8)	351 (3.2)	304 (3.1)	218 (2.5)	200 (2.4)
40～49歳	825 (6.6)	588 (5.3)	490 (5.0)	404 (4.7)	366 (4.5)
50～59歳	952 (7.6)	827 (7.5)	721 (7.4)	631 (7.3)	654 (8.0)
60～69歳	1,388 (11.0)	1,197 (10.8)	990 (10.1)	862 (9.9)	783 (9.5)
70～79歳	2,720 (21.6)	2,478 (22.4)	2,141 (21.8)	1,970 (22.7)	1,861 (22.7)
80～89歳	3,929 (31.3)	3,578 (32.3)	3,274 (33.4)	3,016 (34.8)	2,794 (34.0)
90歳以上	1,880 (15.0)	1,696 (15.3)	1,566 (16.0)	1,356 (15.6)	1,352 (16.5)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日本生まれ新登録結核患者数は、前年の8,673人から467人減少して8,206人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く2,794人で日本生まれ新登録結核患者の34.0%となっている。15歳以上の年齢階級では、50～59歳で23人(3.6%)の増加となった以外では患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは80～89歳で222人の減少となっている。90歳以上も2020年以降は減少傾向となっているが、2023年は4人の減少にとどまっている。

表 6 - 1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	11.5	10.1	9.2	8.2	8.1
0～4歳	0.4	0.6	0.3	0.5	0.5
5～9歳	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1
10～14歳	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2
15～19歳	2.4	1.3	1.8	1.3	1.7
20～29歳	9.2	8.1	7.4	6.1	8.2
30～39歳	5.4	4.8	4.3	3.7	4.0
40～49歳	5.3	4.0	3.6	3.1	2.9
50～59歳	6.5	5.5	4.9	4.2	4.2
60～69歳	9.1	8.0	7.0	6.1	5.8
70～79歳	17.6	15.7	13.7	12.6	11.9
80～89歳	45.4	40.3	36.5	32.6	29.6
90歳以上	85.2	72.7	64.6	54.0	51.6

年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は5.8で全年齢の罹患率より低いが、70～79歳で11.9、80～89歳で29.6、90歳以上では51.6となっている。全体としては、外国生まれ患者の影響がある若年層を除いて、年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

表6-2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	4.1	3.7	3.3	3.0	2.8
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
15～19歳	0.7	0.4	0.6	0.3	0.3
20～29歳	2.3	2.0	1.6	1.6	1.9
30～39歳	1.4	1.4	1.2	1.0	1.0
40～49歳	1.7	1.2	1.0	1.0	0.9
50～59歳	2.2	1.8	1.7	1.5	1.3
60～69歳	3.2	3.1	2.5	2.1	2.0
70～79歳	6.5	5.7	4.8	4.6	4.3
80～89歳	17.8	15.9	14.6	12.8	11.8
90歳以上	37.7	31.0	27.7	22.9	21.6

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは5未満だが、80～89歳で11.8、90歳以上では21.6となっている。

表6-3. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総 数	10.2	9.0	8.0	7.1	6.8
0～4歳	0.3	0.6	0.3	0.4	0.4
5～9歳	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
10～14歳	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2
15～19歳	1.1	0.6	1.0	0.5	0.4
20～29歳	2.6	2.4	2.1	1.4	1.3
30～39歳	3.4	2.6	2.3	1.7	1.6
40～49歳	4.5	3.3	2.8	2.4	2.2
50～59歳	5.9	5.0	4.3	3.7	3.7
60～69歳	8.6	7.7	6.6	5.8	5.3
70～79歳	17.2	15.3	13.1	12.1	11.5
80～89歳	44.1	39.3	34.8	31.2	28.4
90歳以上	81.5	71.1	62.1	51.5	49.6

新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.3減少の6.8となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.3、30～39歳で1.6となっており、全体の罹患率からは低くなっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数(人)					備考	(再掲)菌陰性陽性肺結核患者数(人)				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全国	14,460	12,739	11,519	10,235	10,096		5,231	4,615	4,127	3,703	3,524
北海道	389	380	335	281	297	↑	129	153	126	101	102
青森	112	120	105	90	70		53	63	46	33	24
岩手	83	74	61	60	42		30	30	31	22	19
宮城	168	135	152	127	117		61	57	55	61	41
秋田	66	63	46	52	48		27	26	26	18	20
山形	83	70	60	48	45		36	30	25	19	17
福島	128	122	101	82	93	↑	55	40	35	34	32
茨城	299	287	221	248	239		115	87	69	78	69
栃木	188	179	151	112	135	↑	89	55	60	50	52
群馬	156	152	123	112	122	↑	48	45	31	40	31
埼玉	786	675	616	557	581	↑	288	239	214	233	200
千葉	697	611	553	494	467		246	222	184	153	155
東京	1,810	1,589	1,429	1,193	1,190		624	597	545	453	451
神奈川	987	808	748	701	655		348	303	257	225	249
新潟	190	147	144	105	128	↑	50	37	59	30	31
富山	101	71	84	65	77	↑	27	26	26	22	28
石川	100	99	97	79	70		37	30	39	31	23
福井	69	63	51	42	42		18	19	13	9	9
山梨	77	48	35	51	32		38	12	10	15	9
長野	156	138	104	105	104		66	52	31	41	40
岐阜	290	265	214	196	176		102	82	70	75	67
静岡	357	348	291	241	281	↑	124	114	100	87	90
愛知	1,024	924	880	724	673		339	308	283	246	223
三重	167	175	148	139	152	↑	67	54	58	54	52
滋賀	149	122	117	116	93		47	44	28	27	29
京都	354	292	271	239	250	↑	130	112	94	88	69
大阪	1,619	1,400	1,171	1,118	1,145	↑	660	550	473	454	411
兵庫	765	641	586	530	550	↑	285	246	222	187	207
奈良	186	133	121	122	140	↑	77	51	51	53	61
和歌山	117	110	89	94	75		50	55	42	32	27
鳥取	43	34	38	40	33		13	11	14	13	10
島根	54	66	54	67	48		20	26	18	27	14
岡山	186	153	183	148	136		67	50	60	59	63
広島	284	254	239	195	214	↑	107	103	91	77	66
山口	154	141	119	116	114		41	40	29	45	38
徳島	96	97	92	75	52		39	35	34	20	12
香川	99	95	83	80	64		32	22	26	34	27
愛媛	112	122	110	98	86		41	54	48	46	32
高知	77	49	48	54	42		27	25	19	22	19
福岡	614	512	535	437	429		196	163	189	141	139
佐賀	108	87	72	59	70	↑	47	36	28	15	25
長崎	174	163	175	137	124		53	47	49	39	32
熊本	175	170	126	146	117		61	58	39	46	44
大分	151	107	117	119	134	↑	69	50	49	47	50
宮崎	101	96	88	84	64		43	41	25	30	19
鹿児島	183	166	161	133	152	↑	59	53	56	38	60
沖縄	176	186	175	124	128	↑	50	62	50	33	36
指定都市(再掲)											
札幌	135	134	111	92	93	↑	44	46	49	27	33
仙台	76	66	86	65	51		31	25	28	36	13
さいたま	143	109	107	96	113	↑	47	37	36	42	37
千葉	109	93	94	95	68		44	43	35	27	32
横浜	412	357	335	288	301	↑	148	126	119	102	108
川崎	184	153	138	127	132	↑	59	58	46	32	48
相模原	57	53	47	48	50	↑	23	23	23	20	28
新潟	76	52	45	43	43		20	17	22	14	11
静岡	72	74	63	54	57	↑	25	31	19	17	17
浜松	86	96	73	60	57		19	32	19	19	17
名古屋	422	378	336	283	262		159	140	119	104	91
京都	221	173	164	144	154	↑	85	68	56	59	40
大阪	701	578	512	480	508	↑	304	234	203	181	170
堺	154	134	119	119	104		75	58	50	54	41
神戸	262	213	201	148	170	↑	80	81	77	42	68
岡山	72	59	81	45	51	↑	24	16	21	22	26
広島	99	94	86	91	84		36	38	37	38	28
北九州	137	123	142	103	95		31	31	45	29	26
福岡	205	149	138	143	140		72	50	51	47	41
熊本	73	64	46	55	44		30	23	14	19	18
東京都特別区	1,381	1,257	1,071	926	914		478	470	408	352	337

(注)備考欄において「↑」は2023年の新登録数が2022年を上回ったものを表す。

都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち18の道府県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,190人で、次いで大阪府の1,145人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全 国	11.5	10.1	9.2	8.2	8.1		4.1	3.7	3.3	3.0	2.8
北海道	7.4	7.3	6.5	5.5	5.8	↑	2.5	2.9	2.4	2.0	2.0
青 森	9.0	9.7	8.6	7.5	5.9		4.3	5.1	3.8	2.7	2.0
岩 手	6.8	6.1	5.1	5.1	3.6	○1	2.4	2.5	2.6	1.9	1.6
宮 城	7.3	5.9	6.6	5.6	5.2	○4	2.6	2.5	2.4	2.7	1.8
秋 田	6.8	6.6	4.9	5.6	5.3		2.8	2.7	2.8	1.9	2.2
山 形	7.7	6.6	5.7	4.6	4.4	○3	3.3	2.8	2.4	1.8	1.7
福 島	6.9	6.7	5.6	4.6	5.3	↑	3.0	2.2	1.9	1.9	1.8
茨 城	10.5	10.0	7.7	8.7	8.5		4.0	3.0	2.4	2.7	2.4
栃 木	9.7	9.3	7.9	5.9	7.1	↑	4.6	2.8	3.1	2.6	2.7
群 馬	8.0	7.8	6.4	5.9	6.4	↑	2.5	2.3	1.6	2.1	1.6
埼 玉	10.7	9.2	8.4	7.6	7.9	↑	3.9	3.3	2.9	3.2	2.7
千 葉	11.1	9.7	8.8	7.9	7.5		3.9	3.5	2.9	2.4	2.5
東 京	13.0	11.3	10.2	8.5	8.4		4.5	4.2	3.9	3.2	3.2
神奈川	10.7	8.7	8.1	7.6	7.1		3.8	3.3	2.8	2.4	2.7
新 潟	8.5	6.7	6.6	4.9	6.0	↑	2.2	1.7	2.7	1.4	1.5
富 山	9.7	6.9	8.2	6.4	7.6	↑	2.6	2.5	2.5	2.2	2.8
石 川	8.8	8.7	8.6	7.1	6.3		3.3	2.6	3.5	2.8	2.1
福 井	9.0	8.2	6.7	5.6	5.6		2.3	2.5	1.7	1.2	1.2
山 梨	9.5	5.9	4.3	6.4	4.0	○2	4.7	1.5	1.2	1.9	1.1
長 野	7.6	6.7	5.1	5.2	5.2	○5	3.2	2.5	1.5	2.0	2.0
岐 阜	14.6	13.4	10.9	10.1	9.1		5.1	4.1	3.6	3.9	3.5
静 岡	9.8	9.6	8.1	6.7	7.9	↑	3.4	3.1	2.8	2.4	2.5
愛 知	13.6	12.3	11.7	9.7	9.0		4.5	4.1	3.8	3.3	3.0
三 重	9.4	9.9	8.4	8.0	8.8	↑	3.8	3.1	3.3	3.1	3.0
滋 賀	10.5	8.6	8.3	8.2	6.6		3.3	3.1	2.0	1.9	2.1
京 都	13.7	11.3	10.6	9.4	9.9	↑△5	5.0	4.3	3.7	3.5	2.7
大 阪	18.4	15.8	13.3	12.7	13.1	↑△1	7.5	6.2	5.4	5.2	4.7
兵 庫	14.0	11.7	10.8	9.8	10.2	↑△4	5.2	4.5	4.1	3.5	3.9
奈 良	14.0	10.0	9.2	9.3	10.8	↑△3	5.8	3.9	3.9	4.1	4.7
和歌山	12.6	11.9	9.7	10.4	8.4		5.4	6.0	4.6	3.5	3.0
鳥 取	7.7	6.1	6.9	7.4	6.1		2.3	2.0	2.6	2.4	1.9
鳥 根	8.0	9.8	8.1	10.2	7.4		3.0	3.9	2.7	4.1	2.2
岡 山	9.8	8.1	9.8	7.9	7.4		3.5	2.6	3.2	3.2	3.4
広 島	10.1	9.1	8.6	7.1	7.8	↑	3.8	3.7	3.3	2.8	2.4
山 口	11.3	10.5	9.0	8.8	8.8		3.0	3.0	2.2	3.4	2.9
徳 島	13.2	13.5	12.9	10.7	7.5		5.4	4.9	4.8	2.8	1.7
香 川	10.4	10.0	8.8	8.6	6.9		3.3	2.3	2.8	3.6	2.9
愛 媛	8.4	9.1	8.3	7.5	6.7		3.1	4.0	3.6	3.5	2.5
高 知	11.0	7.1	7.0	8.0	6.3		3.9	3.6	2.8	3.3	2.9
福 岡	12.0	10.0	10.4	8.5	8.4		3.8	3.2	3.7	2.8	2.7
佐 賀	13.3	10.7	8.9	7.4	8.8	↑	5.8	4.4	3.5	1.9	3.1
長 崎	13.1	12.4	13.5	10.7	9.8		4.0	3.6	3.8	3.0	2.5
熊 本	10.0	9.8	7.3	8.5	6.8		3.5	3.3	2.3	2.7	2.6
大 分	13.3	9.5	10.5	10.8	12.2	↑△2	6.1	4.4	4.4	4.2	4.6
宮 崎	9.4	9.0	8.3	8.0	6.1		4.0	3.8	2.4	2.9	1.8
鹿 児 島	11.4	10.5	10.2	8.5	9.8	↑	3.7	3.3	3.6	2.4	3.9
沖 縄	12.1	12.7	11.9	8.4	8.7	↑	3.4	4.2	3.4	2.2	2.5
指定都市（再掲）											
札 幌	6.9	6.8	5.6	4.7	4.7		2.2	2.3	2.5	1.4	1.7
仙 台	7.0	6.0	7.8	5.9	4.6		2.8	2.3	2.6	3.3	1.2
さいたま	10.9	8.2	8.0	7.2	8.4	↑	3.6	2.8	2.7	3.1	2.8
千 葉	11.1	9.5	9.6	9.7	6.9		4.5	4.4	3.6	2.8	3.3
横 浜	11.0	9.5	8.9	7.6	8.0	↑	3.9	3.3	3.2	2.7	2.9
川 崎	12.0	9.9	9.0	8.2	8.5	↑	3.9	3.8	3.0	2.1	3.1
相模原	7.9	7.3	6.5	6.6	6.9	↑	3.2	3.2	3.2	2.8	3.9
新 潟	9.5	6.6	5.7	5.5	5.6	↑	2.5	2.2	2.8	1.8	1.4
静 岡	10.3	10.7	9.1	7.9	8.4	↑	3.6	4.5	2.8	2.5	2.5
浜 松	10.9	12.1	9.2	7.6	7.3		2.4	4.0	2.4	2.4	2.2
名古屋	18.1	16.2	14.4	12.2	11.3		6.8	6.0	5.1	4.5	3.9
京 都	15.1	11.8	11.3	9.9	10.7	↑	5.8	4.6	3.9	4.1	2.8
大 阪	25.6	21.0	18.6	17.4	18.3	↑	11.1	8.5	7.4	6.6	6.1
堺	18.6	16.2	14.5	14.6	12.8		9.1	7.0	6.1	6.6	5.0
神 戸	17.2	14.0	13.2	9.8	11.3	↑	5.3	5.3	5.1	2.8	4.5
岡 山	10.2	8.1	11.2	6.3	7.1	↑	3.4	2.2	2.9	3.1	3.6
広 島	8.3	7.8	7.2	7.6	7.1		3.0	3.2	3.1	3.2	2.4
北九州	14.6	13.1	15.2	11.1	10.4		3.3	3.3	4.8	3.1	2.8
福 岡	12.9	9.2	8.5	8.8	8.5		4.5	3.1	3.1	2.9	2.5
熊 本	9.9	8.7	6.2	7.5	6.0		4.1	3.1	1.9	2.6	2.4
東京都特別区	14.3	12.9	11.1	9.5	9.3		5.0	4.8	4.2	3.6	3.4

注1) 備考欄において「↑」は2023年の罹患率が2022年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち18の道府県で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県数は、43に達している。最も低い岩手県の罹患率は3.6となっている。罹患率が最も高い大阪府は13.1で岩手県の3.6倍となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) /前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6
2020年	31,551	△2,972	8,640	△1,055	6.8	△0.9
2021年	27,754	△3,797	7,744	△896	6.2	△0.6
2022年	24,555	△3,199	6,782	△962	5.4	△0.8
2023年	22,426	△2,129	6,794	▲12	5.5	▲0.1

1998年以降は新分類

2023年末現在の結核登録者数は22,426人と、前年の24,555人より2,129人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,794人と、前年より12人増加している。また、2023年末の結核有病率は、前年の5.4から0.1増加し、5.5となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2019年登録者	2020年登録者	2021年登録者	2022年登録者	2023年登録者
総数	667 (100.0)	546 (100.0)	460 (100.0)	384 (100.0)	425 (100.0)
1940年代以前	27 (4.0)	17 (3.1)	15 (3.3)	12 (3.1)	10 (2.4)
1950年代	80 (12.0)	65 (11.9)	58 (12.6)	31 (8.1)	47 (11.1)
1960年代	42 (6.3)	31 (5.7)	20 (4.3)	13 (3.4)	21 (4.9)
1970年代	24 (3.6)	16 (2.9)	16 (3.5)	18 (4.7)	8 (1.9)
1980年代	21 (3.1)	12 (2.2)	8 (1.7)	8 (2.1)	9 (2.1)
1990年代	35 (5.2)	25 (4.6)	20 (4.3)	18 (4.7)	15 (3.5)
2000年代	67 (10.0)	42 (7.7)	44 (9.6)	37 (9.6)	50 (11.8)
2010年代	371 (55.6)	305 (55.9)	195 (42.4)	122 (31.8)	120 (28.2)
2020年以降		33 (6.0)	84 (18.3)	125 (32.6)	145 (34.1)
〔再掲〕2010年以降の再治療者数					
2010年	13 (3.5)	7 (2.1)	9 (3.2)	5 (2.0)	7 (2.6)
2011年	12 (3.2)	14 (4.1)	9 (3.2)	4 (1.6)	4 (1.5)
2012年	19 (5.1)	17 (5.0)	8 (2.9)	16 (6.5)	11 (4.2)
2013年	20 (5.4)	9 (2.7)	15 (5.4)	9 (3.6)	12 (4.5)
2014年	20 (5.4)	13 (3.8)	12 (4.3)	5 (2.0)	9 (3.4)
2015年	34 (9.2)	21 (6.2)	14 (5.0)	11 (4.5)	14 (5.3)
2016年	60 (16.2)	32 (9.5)	10 (3.6)	12 (4.9)	12 (4.5)
2017年	82 (22.1)	42 (12.4)	21 (7.5)	17 (6.9)	13 (4.9)
2018年	83 (22.4)	75 (22.2)	34 (12.2)	13 (5.3)	16 (6.0)
2019年	28 (7.5)	75 (22.2)	63 (22.6)	30 (12.1)	22 (8.3)
2020年		33 (10)	57 (20.4)	38 (15.4)	34 (12.8)
2021年			27 (9.7)	58 (23.5)	47 (17.7)
2022年				29 (11.7)	52 (19.6)
2023年					12 (4.5)

〔注〕 前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2019～2023年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2023年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の384人から41人増加して425人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は120人、2020年以降の者は145人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち62.4%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2003年	18.8
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4
2020年	19.1
2021年	20.8
2022年	19.9
2023年	19.9

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2003年	32.3
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4
2020年	27.5
2021年	38.9
2022年	32.4
2023年	40.0

2023年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年と同じ19.9%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は40.0%で、前年から7.6ポイントの大幅な増加となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2003年	26.0
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9
2020年	20.9
2021年	23.1
2022年	21.5
2023年	22.5

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2003年	14.6
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2
2020年	14.3
2021年	16.5
2022年	13.5
2023年	15.0

2003年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から1.0ポイント増加して22.5%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は15.0%で、前年から1.5ポイントの増加となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2003年	21.0
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7
2020年	19.7
2021年	22.0
2022年	20.5
2023年	21.3

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2003年	29.3
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3
2020年	27.6
2021年	36.1
2022年	29.5
2023年	40.4

2003年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、0.8ポイント増加して21.3%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は40.4%で、前年から10.9ポイントの大幅な増加となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新登録肺結核患者数	11,094	9,446	8,413	7,454	7,495
培養陽性患者数	8,110 (100.0)	6,645 (100.0)	5,902 (100.0)	5,231 (100.0)	5,515 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	44 (0.5)	46 (0.7)	41 (0.7)	26 (0.5)	35 (0.6)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	21	23	19	14	19
上記以外でINH耐性含む	315 (3.9)	251 (3.8)	180 (3.0)	174 (3.3)	219 (4.0)
上記以外でRFP耐性含む	21 (0.3)	14 (0.2)	15 (0.3)	15 (0.3)	17 (0.3)
その他耐性	339 (4.2)	268 (4.0)	239 (4.0)	223 (4.3)	231 (4.2)
HRSEすべてに感受性	5,899 (72.7)	4,583 (69.0)	4,038 (68.4)	3,617 (69.1)	3,938 (71.4)
HR感受性その他不明	40 (0.5)	47 (0.7)	38 (0.6)	31 (0.6)	86 (1.6)
未実施・他・不明	1,452 (17.9)	1,436 (21.6)	1,351 (22.9)	1,145 (21.9)	989 (17.9)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	6,658 (82.1)	5,209 (78.4)	4,551 (77.1)	4,086 (78.1)	4,526 (82.1)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	6,658 (100.0)	5,209 (100.0)	4,551 (100.0)	4,086 (100.0)	4,526 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	44 (0.7)	46 (0.9)	41 (0.9)	26 (0.6)	35 (0.8)
上記以外でINH耐性含む	315 (4.7)	251 (4.8)	180 (4.0)	174 (4.3)	219 (4.8)
上記以外でRFP耐性含む	21 (0.3)	14 (0.3)	15 (0.3)	15 (0.4)	17 (0.4)
その他耐性	339 (5.1)	268 (5.1)	239 (5.3)	223 (5.5)	231 (5.1)
HRSEすべてに感受性	5,899 (88.6)	4,583 (88.0)	4,038 (88.7)	3,617 (88.5)	3,938 (87.0)
HR感受性その他不明	40 (0.6)	47 (0.9)	38 (0.8)	31 (0.8)	86 (1.9)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

2023年の新登録肺結核培養陽性結核患者5,515人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は4,526人で、割合は82.1%となり、前年の78.1%から4.0ポイント増加となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH、RFP両剤耐性の者)は35人で、前年より9人の増加となっている。また、多剤耐性肺結核患者35人のうち、19人が外国出生患者となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.6%で前年から0.1ポイント増加となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は87.0%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新登録結核患者数	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)	10,096 (100.0)
糖尿病ありの者	2,105 (14.6)	1,883 (14.8)	1,775 (15.4)	1,614 (15.8)	1,696 (16.8)
なしの者	10,680 (73.9)	9,117 (71.6)	8,257 (71.7)	7,122 (69.6)	7,208 (71.4)
不明の者	1,675 (11.6)	1,739 (13.7)	1,487 (12.9)	1,499 (14.6)	1,192 (11.8)
H I V 検査実施陽性者	29 (0.2)	31 (0.2)	30 (0.3)	25 (0.2)	14 (0.1)
H I V 検査実施陰性者	975 (6.7)	846 (6.6)	817 (7.1)	608 (5.9)	636 (6.3)
H I V 検査未実施者	4,942 (34.2)	4,292 (33.7)	3,838 (33.3)	3,401 (33.2)	3,703 (36.7)
不明の者	8,514 (58.9)	7,570 (59.4)	6,834 (59.3)	6,201 (60.6)	5,743 (56.9)

2023年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,696人で、新登録結核患者の16.8%となっている。また、HIV検査を実施した患者は650人で、新登録結核患者の6.4%にあたり、このうちHIV陽性は14人で、新登録結核患者の0.1%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（看護師・保健師）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総数	152 (1.1)	123 (1.0)	116 (1.0)	113 (1.1)	91 (0.9)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	20 (1.7)	15 (1.5)	15 (1.6)	12 (1.5)	17 (1.6)
30～39歳	27 (3.5)	36 (5.2)	16 (2.7)	25 (5.0)	9 (1.7)
40～49歳	45 (4.6)	29 (3.9)	33 (5.2)	33 (6.0)	25 (5.1)
50～59歳	36 (3.4)	28 (3.0)	36 (4.3)	22 (3.0)	18 (2.4)
60～69歳	20 (1.4)	12 (1.0)	13 (1.2)	19 (2.1)	16 (1.9)
70～79歳	4 (0.1)	2 (0.1)	3 (0.1)	1 (0.0)	6 (0.3)
80歳以上	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)

2023年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は91人で、前年の113人から22人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は0.9%と前年から0.2ポイントの減少となっている。年齢階級別では、40～49歳が最も多く25人となっており、同年齢階級新登録結核患者の5.1%となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総数	39 (0.3)	33 (0.3)	27 (0.2)	20 (0.2)	24 (0.2)
20～29歳	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)
30～39歳	5 (0.7)	7 (1.0)	5 (0.8)	2 (0.4)	2 (0.4)
40～49歳	5 (0.5)	8 (1.1)	5 (0.8)	0 (0.0)	2 (0.4)
50～59歳	6 (0.6)	4 (0.4)	5 (0.6)	4 (0.5)	3 (0.4)
60～69歳	8 (0.5)	5 (0.4)	4 (0.4)	6 (0.7)	3 (0.3)
70～79歳	6 (0.2)	5 (0.2)	3 (0.1)	4 (0.2)	8 (0.4)
80歳以上	8 (0.1)	3 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.1)	5 (0.1)

2023年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は24人で、前年より4人増加となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。30歳から79歳の各年齢階級別新登録結核患者中割合は0.3～0.4%となっている。

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総数	221 (1.5)	223 (1.8)	212 (1.8)	192 (1.9)	204 (2.0)
15～19歳	1 (0.7)	1 (1.3)	2 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	33 (2.8)	38 (3.7)	47 (5.1)	54 (6.9)	65 (6.2)
30～39歳	37 (4.8)	51 (7.4)	38 (6.4)	29 (5.8)	33 (6.1)
40～49歳	62 (6.3)	42 (5.7)	44 (6.9)	35 (6.4)	29 (6.0)
50～59歳	50 (4.7)	46 (5.0)	35 (4.2)	34 (4.6)	47 (6.2)
60～69歳	30 (2.0)	34 (2.7)	33 (3.1)	24 (2.6)	23 (2.7)
70～79歳	7 (0.2)	10 (0.4)	11 (0.5)	15 (0.7)	4 (0.2)
80歳以上	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.1)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2023年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は204人で昨年の192人から12人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は2.0%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く65人で、同年齢階級新登録結核患者の6.2%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
合 計	762 (19.2)	673 (19.9)	600 (19.9)	513 (20.0)	453 (16.0)
20～24歳	50 (8.1)	51 (10.1)	56 (12.5)	39 (10.6)	39 (7.5)
25～29歳	60 (11.0)	75 (14.4)	65 (13.5)	60 (14.7)	49 (9.4)
30～34歳	59 (16.0)	62 (17.2)	50 (15.9)	57 (20.7)	45 (14.3)
35～39歳	85 (21.4)	73 (22.4)	60 (21.3)	47 (20.7)	29 (12.8)
40～44歳	78 (17.8)	73 (22.2)	59 (21.5)	46 (18.3)	55 (24.7)
45～49歳	129 (23.6)	89 (21.6)	72 (19.7)	62 (21.1)	50 (18.9)
50～54歳	134 (24.5)	114 (24.6)	126 (28.2)	88 (23.7)	93 (24.1)
55～59歳	167 (32.9)	136 (29.6)	112 (28.4)	114 (31.6)	93 (24.7)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

() 内は新登録に占める割合

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
合 計	422 (17.7)	334 (17.3)	306 (18.2)	265 (18.2)	244 (15.1)
20～24歳	26 (6.8)	12 (4.8)	25 (10.6)	15 (7.7)	22 (7.8)
25～29歳	34 (11.2)	42 (14.3)	30 (11.5)	21 (9.8)	25 (9.7)
30～34歳	24 (11.9)	29 (15.5)	15 (9.7)	17 (13.0)	19 (10.8)
35～39歳	36 (16.8)	29 (19.0)	19 (13.9)	17 (14.7)	19 (14.1)
40～44歳	35 (13.7)	27 (15.2)	22 (16.1)	22 (16.7)	21 (17.6)
45～49歳	74 (23.3)	48 (18.4)	38 (17.5)	33 (19.2)	25 (16.6)
50～54歳	86 (23.4)	58 (19.9)	76 (28.0)	57 (22.2)	59 (22.5)
55～59歳	107 (31.6)	89 (28.4)	81 (29.6)	83 (35.2)	54 (23.3)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2023年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は453人で、前年の513人から60人減少している。新登録結核患者のうちの割合は16.0%で前年から4.0ポイントの減少となっている。年齢階級別での患者数は、50～54歳と55～59歳が同数で最も多い93人で、それぞれ同年齢階級の24.1%と24.7となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合は55～59歳が最も高く23.3%となっているが、前年からは11.9ポイントの減少となっている。

表15-1. 前年(2022年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	10,216	6,629 (64.9)	2,763 (27.0)	8 (0.1)	193 (1.9)	166 (1.6)	441 (4.3)	16 (0.2)
0～9歳	28	23 (82.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	1 (3.6)	2 (7.1)	1 (3.6)
10～19歳	77	65 (84.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.6)	4 (5.2)	6 (7.8)	0 (0.0)
20～29歳	780	651 (83.5)	3 (0.4)	1 (0.1)	12 (1.5)	66 (8.5)	46 (5.9)	1 (0.1)
30～39歳	502	438 (87.3)	1 (0.2)	0 (0.0)	8 (1.6)	31 (6.2)	23 (4.6)	1 (0.2)
40～49歳	542	487 (89.9)	14 (2.6)	0 (0.0)	8 (1.5)	9 (1.7)	23 (4.2)	1 (0.2)
50～59歳	731	627 (85.8)	52 (7.1)	0 (0.0)	17 (2.3)	12 (1.6)	23 (3.1)	0 (0.0)
60～69歳	912	693 (76.0)	130 (14.3)	1 (0.1)	24 (2.6)	6 (0.7)	56 (6.1)	2 (0.2)
70～79歳	2,066	1,430 (69.2)	471 (22.8)	4 (0.2)	47 (2.3)	6 (0.3)	104 (5.0)	4 (0.2)
80～89歳	3,152	1,699 (53.9)	1,259 (39.9)	2 (0.1)	51 (1.6)	18 (0.6)	118 (3.7)	5 (0.2)
90歳以上	1,426	516 (36.2)	833 (58.4)	0 (0.0)	23 (1.6)	13 (0.9)	40 (2.8)	1 (0.1)

2022年の新登録結核患者の2023年末での治療成績は、治療成功が64.9%、死亡27.0%、失敗0.1%、脱落・中断1.9%、転出1.6%、治療中4.3%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で14.3%、70～79歳で22.8%、80～89歳で39.9%、90歳以上で58.4%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は82.1%～89.9%となっている。20歳以上では脱落・中断は60～69歳で最も高く2.6%となっている。

表15-2. (再掲)前年(2022年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	389	258 (66.3)	91 (23.4)	1 (0.3)	12 (3.1)	4 (1.0)	22 (5.7)	1 (0.3)
0～9歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10～19歳	2	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	23	17 (73.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.3)	5 (21.7)	0 (0.0)
30～39歳	16	15 (93.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)
40～49歳	29	27 (93.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.4)	1 (3.4)	0 (0.0)
50～59歳	35	29 (82.9)	2 (5.7)	0 (0.0)	1 (2.9)	0 (0.0)	3 (8.6)	0 (0.0)
60～69歳	56	41 (73.2)	8 (14.3)	0 (0.0)	4 (7.1)	0 (0.0)	3 (5.4)	0 (0.0)
70～79歳	87	57 (65.5)	19 (21.8)	1 (1.1)	3 (3.4)	1 (1.1)	5 (5.7)	1 (1.1)
80～89歳	98	58 (59.2)	37 (37.8)	0 (0.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	2 (2.0)	0 (0.0)
90歳以上	43	12 (27.9)	25 (58.1)	0 (0.0)	3 (7.0)	1 (2.3)	2 (4.7)	0 (0.0)

2022年の新登録再治療結核患者の2023年末での治療成績は、治療成功が66.3%、死亡23.4%、失敗0.3%、脱落・中断3.1%、転出1.0%、治療中5.7%、不明0.3%となっている。

表15-3. 前年(2022年)新登録潜在性結核感染症(LTBI)治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	4,969	4,222 (85.0)	198 (4.0)	14 (0.3)	349 (7.0)	49 (1.0)	120 (2.4)	17 (0.3)
0～9歳	318	296 (93.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.9)	5 (1.6)	12 (3.8)	2 (0.6)
10～19歳	93	83 (89.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.3)	4 (4.3)	2 (2.2)	0 (0.0)
20～29歳	458	405 (88.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (5.9)	13 (2.8)	12 (2.6)	1 (0.2)
30～39歳	343	312 (91.0)	0 (0.0)	2 (0.6)	14 (4.1)	6 (1.7)	8 (2.3)	1 (0.3)
40～49歳	515	473 (91.8)	2 (0.4)	1 (0.2)	23 (4.5)	4 (0.8)	11 (2.1)	1 (0.2)
50～59歳	663	576 (86.9)	10 (1.5)	1 (0.2)	50 (7.5)	5 (0.8)	17 (2.6)	4 (0.6)
60～69歳	662	565 (85.3)	20 (3.0)	2 (0.3)	58 (8.8)	3 (0.5)	13 (2.0)	1 (0.2)
70～79歳	1,087	908 (83.5)	62 (5.7)	1 (0.1)	81 (7.5)	4 (0.4)	27 (2.5)	4 (0.4)
80～89歳	699	525 (75.1)	80 (11.4)	4 (0.6)	68 (9.7)	2 (0.3)	17 (2.4)	3 (0.4)
90歳以上	131	79 (60.3)	24 (18.3)	3 (2.3)	21 (16.0)	3 (2.3)	1 (0.8)	0 (0.0)

2022年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2023年末での治療完了率は85.0%となっている。脱落・中断は7.0%となっているが、高齢になるにつれて脱落・中断は高くなる傾向があり、80～89歳では9.7%、90歳以上では16.0%となっている。

表15-4. 前々年(2021年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	50	31 (62.0)	8 (16.0)	0 (0.0)	2 (4.0)	3 (6.0)	6 (12.0)	0 (0.0)

(注) 表15-1～表15-4: 2023年末までの治療成績

2021年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2023年末での治療成績は、対象50人のうち治療成功62.0%、死亡16.0%、失敗0.0%、脱落・中断4.0%、転出6.0%、治療中12.0%、不明0.0%となっている。

率の算出に使用した人口について

総人口、年齢階級別人口、日本人人口および都道府県人口は、「人口推計」（総務省統計局）（<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/>）（2024年7月1日に利用）を用いた。